

事例番号:360128

## 原因分析報告書要約版

産科医療補償制度  
原因分析委員会第六部会

### 1. 事例の概要

#### 1) 妊産婦等に関する情報

初産婦

#### 2) 今回の妊娠経過

特記事項なし

#### 3) 分娩のための入院時の状況

妊娠 28 週 3 日

17:30 頃 不正性器出血のため救急搬送され当該分娩機関を受診

17:37- 胎児心拍数陣痛図で遅発一過性徐脈を認める

19:00 頃- 胎児心拍数陣痛図で変動一過性徐脈出現

19:45 胎児機能不全および胎盤機能不全のため入院

#### 4) 分娩経過

妊娠 28 週 3 日

20:34- 胎児心拍数陣痛図で胎児心拍数 60-70 拍/分から回復せず

20:53 胎児心拍数異常のため帝王切開により児娩出

胎児付属物所見 臍帯過捻転あり、胎盤病理組織学検査で臍帯静脈の拡張を認める

#### 5) 新生児期の経過

(1) 在胎週数:28 週 3 日

(2) 出生時体重:1200g 台

(3) 臍帯動脈血ガス分析:実施なし

(4) Apgar スコア:生後 1 分 1 点、生後 5 分 1 点

(5) 新生児蘇生:人工呼吸(バッグ・マスクおよびチューブ・バッグ)、気管挿管、胸骨圧

迫、アドレナリン注射液投与

(6) 診断等:

出生当日 早産児、極低出生体重児、新生児仮死

(7) 頭部画像所見:

1歳3ヶ月 頭部MRIで脳室周囲白質軟化症の所見を認める

**6) 診療体制等に関する情報**

〈健診機関〉

(1) 施設区分:診療所

(2) 関わった医療スタッフの数

医師:産科医 1名

看護スタッフ:看護師 2名

〈当該分娩機関〉

(1) 施設区分:病院

(2) 関わった医療スタッフの数

医師:産科医 3名、小児科医 3名、麻酔科医 2名

看護スタッフ:助産師 1名、看護師 3名

**2. 脳性麻痺発症の原因**

(1) 脳性麻痺発症の原因は、妊娠 28 週 3 日に生じた胎児の脳の虚血(血流量の減少)により脳室周囲白質軟化症(PVL)を発症したことであると考える。

(2) 児の脳の虚血(血流量の減少)の原因を解明することは困難であるが、常位胎盤早期剥離および臍帯血流障害の両方の可能性を否定できない。

(3) 早産期の児の脳血管の特徴および大脳白質の脆弱性がPVL発症の背景因子であると考える。

**3. 臨床経過に関する医学的評価(2020年4月改定の表現を使用)**

1) 妊娠経過

妊娠中の管理は一般的である。

2) 分娩経過

(1) 妊娠 28 週 3 日性器出血で救急搬送後の対応(腔鏡診、超音波断層法、分娩監

視装置装着等)は一般的である。

- (2) 受診時の胎児心拍数陣痛図で基線細変動の減少、変動一過性徐脈、遅発一過性徐脈を認めると判読し、連続モニタリングおよび原因検索として胎児超音波断層法を実施したこと、および嚴重な経過観察が必要と判断し入院管理としたことは、いずれも一般的である。
- (3) 胎児心拍数 80 拍/分から 5 分以上回復しないため 20 時 39 分に超緊急帝王切開術を決定したこと、および決定より 14 分で児を娩出したことは、いずれも適確である。
- (4) 胎盤病理組織学検査を実施したことは適確である。

### 3) 新生児経過

新生児蘇生(バッグ・マスクによる人工呼吸、気管挿管、胸骨圧迫、アドレナリン注射液投与等)は一般的である。

## 4. 今後の産科医療の質の向上のために検討すべき事項

### 1) 健診機関および当該分娩機関における診療行為について検討すべき事項

#### (1) 健診機関

なし。

#### (2) 当該分娩機関

なし。

### 2) 健診機関および当該分娩機関における設備や診療体制について検討すべき事項

#### (1) 健診機関

なし。

#### (2) 当該分娩機関

なし。

### 3) わが国における産科医療について検討すべき事項

#### (1) 学会・職能団体に対して

早産児のPVL発症の病態生理、予防に関して更なる研究の推進が望まれる。

#### (2) 国・地方自治体に対して

なし。